

「ヒヤリ・ハット」体験事例

集計期間：平成19年10月～11月

	どこで	何をしているとき	何がどうした、どうなった	改善すべき事項	改善した結果(効果)	
収集運搬	1	コンクリート構造物解体現場	集積したコンクリート瓦礫を処理場へ運搬するための積込作業中	走行時の積荷落下防止のため、車両側面で確認中の作業員の足下にバックホーのバケットより瓦礫が落下、これを避けようとして転倒した。	①重機オペレーターはバケット容量に無理のない作業に努めるとともに、補助作業員は周辺状況を確認し、機械の停止後作業に当たる。 ②機械作業半径内での補助労務の禁止を徹底する。 ③特に機械対人の組合せ作業は、作業指揮者を配置し、手順、合図の徹底を図る。	機械作業は、人、物に対する周囲への配慮が軽減され、補助作業にあつては安心して十分な荷作ができることとなり、より円滑な作業となった。
	2	当社場内	コンテナ上部を覆っているシートを取り除くための作業時	コンテナ上部を覆っているシートを取り除いた後、コンテナの縁に乗ったとき、雨で濡れていたためか滑って、転落した。幸い高さあまりなかったため、怪我には至らず。	①コンテナ上部に乗る際、縁は常に滑りやすいとの認識を持つようにし、なるべく縁に乗らないようにした。(特に雨等で濡れているとき)	無意識に縁に乗るとは違い、意識を持ち、なるべく雨の後は踏み込まないようにしたため、その後落下者はいない。
	3	当社事務所出入口	翌日の配車のため	慌てていて、けつまずき、転びそうになった。	何事も慌てず、周囲に注意をする。	
	4	当社積替保管工場内	木くずを、コンテナ内において手作業で整理中、足で釘を踏んだり、腕を傷つけたり、と小さな傷を何回も体験した。	足下、身の回り、木くずを持つときの釘の状態等を冷静に見たり、考えたりする余裕がないとき。 暑さ、忙しさ、気力の3点が要因で、大きな怪我にはならなかったが、それに繋がる可能性は大きい。	①周りを見つめる。先を見つめる、今を見つめる冷静さを持つこと。 ②怪我及びショベル等のパンクもある。釘はやっかいなもので、整理するときは釘を下向きに、土間コンクリートの上では手前からきれいにすることを徹底した。	現時点では効果は不明であるが、日々努力することだと思う。
	5	客先との取引現場	客先にて、事前に営業による引き取り対象物のサンプリング・分析を行い安全を確認の上、廃棄物を引き取りに行った現場	客先にて、営業担当者が、事前に確認した品物と当日引き取りしようとした品物が違った。結果、処理フローが本来と全く異なるものであり、確認せずに処理に回していたら、大きなトラブルに発展する可能性があった。	①工場責任者として、事前確認したものと処理前の品物との確認の徹底 ②サンプリングの実施と現場引き取り作業時の営業担当者の立会	現時点では、類似事例は発生していない。
中間処理	1	土砂置場	土砂積込み作業中	ショベルドーザーで土砂をダンプに積込み作業中、異物混入のため、作業を中止して、降りようとして足合から滑りヒヤリとした。	足合いの確認。特に雨降りのときは滑りやすいので、注意が必要	事故後は、足下に注意して降りているため、ヒヤリとしていない。
	2	自社工場内	コンクリート殻搬入時(荷卸し前)	コンクリート殻の荷下ろし時にほこり飛散防止のため、荷降し前に散水をしようと、散水機の前まで小走りで行こうとしたところ、工場内に敷いてある鉄板に段差があり、そこに足を取られて転びそうになった。	①急いでいても走らず、常に自分の進行方向に危険がないか確かめる。 ②地盤を改良し、全体的に平らにすることで、つまづく危険をなくした。	地面の凸凹がなくなり、つまづくこともなくなった。
	3	当社処分場	バックホーで焼却処分と破碎処分をする木材の分別中	バックホーで4m程度の木材を挟んだ際、思わぬ方向へ木材が跳ね、分別作業をしていた作業員にもう少しで木材が衝突するところであった。	①重機のオペレーター、一般作業員ともに声を掛け合う。 ②再度、安全について個人が認識を高め、気を引き締めるようにした。	毎朝、朝礼において「ヘルメット」等安全保安具の着用や安全な作業について話し合うことにより、現場において、一層安全意識が高くなった。
	4	当社処理場内	RC積込み時	フォークリフトのブレーキが効かなくなり、衝突しそうになった。	①別の重機で積込み作業 ②すぐに修理手配。 ③仕業点検の徹底	

	No.	どこで	何をしているとき	何がどうした、どうなった	改善すべき事項	改善した結果(効果)
中	5	自社工場内	RC積込み時	一般客のダンプカーのスピードの出し過ぎにより、ダンプカー同士の接触事故になり	①一般客に対し、プラント内は徐行するよう呼びかけた。	その後、プラント内は無事故である。

間 処 理			かけた。	②プラント内徐行の看板を設置(増設)した。		
	6	当社工場内	配達物(RC40)を積んでいるとき、一般客のトラック運転手が降りてきて、積み込み作業をしている重機に接近してきた。	積み込み作業をしている重機後方より接近してきたため、重機のバックミラー(サイドミラー)からの視界に入らなかったため、重機と人との接触事故に繋がるところであった。	①サイドミラーだけでなく、目視したり、また重機から降りて後方確認し、日々緊張感をもって作業する。 ②朝のミーティングによる持ち場の確認と、緊張感をもって作業する。	その後、プラント内は無事故である。
	7	当社中間処理場内	フォークリフト運転中	塩ビパイプを跳ねて、そのパイプが壁に当たり跳ね返ってきたのが体に当たりそうになった。	①周囲をよく確認する。 ②パイプは丸いから、特に気をつける。 ③進入路に異物が落ちていないか注意する。	
	8	当社中間処理場内	仕分け作業中(手選別)	重機のつかみでゴミをつかんだとき、中のものが割れて、破片が飛んできて当たりそうになった。	バックホーは、油圧が強いので、壊れそうな物は別に扱う。	
	9	当社積替保管場所	パッカー車への積み込み中	廃棄物中の塩ビパイプが割れて、自分の方に飛んできた。	①積み込むものをよく確認する。 ②丸いものは危ないので、積み込み作業の人を除き、離れて作業する。	形状に留意して、別に積み込み作業をする。
	10	工場内残土ピット前	処理前の残土が湿潤土であったため、エコパウダーを混合しているとき	通常は、エコパウダーの入ったフレコンバッグをフォークリフトでつり上げ、残土ピットへあけるが、急いでいたため、近くにあった重機で掴みあげようとしたところ、機械の腕を伸ばしすぎたため、重心が変わり機械が片方に浮いた状態になり転倒しそうになった。	①機械の特性をよく知り横着せずに安全性を一番に考えて作業を行う。 ②機械ごとの特性を全作業員に教えて、危険な使い方をしないよう指導する。	作業員は、機械の危険性をよく認識し、危険な使い方がなくなった。
最終 処分	11	工場内	10tコンテナ車のシートを取り外しているとき	10tコンテナ車の上に乗ってシート足場を踏み外して転落しそうになった。	シートは、コンテナ車の上に乗って取り外さず、横から下へ引っ張って外し、下で折りたたむようにした。	コンテナの上で作業をすると、足場が不安定で危なかったが、地面に降ろしてからたたむようにすると足場の危険がなく、安全に作業ができるようになった。
	1	処分場内の荷卸し場	ダンプカーからの荷卸し時	ダンプアップ中車体が傾き、横転しそうになった。	①荷卸し場所の地盤を十分に踏み固め、水平に保つ。 ②全従業員に対し、安全な場所以外での荷卸しを禁止し、ダンプカーの運転手にも注意を促す。	安全に荷卸しできるようになった。